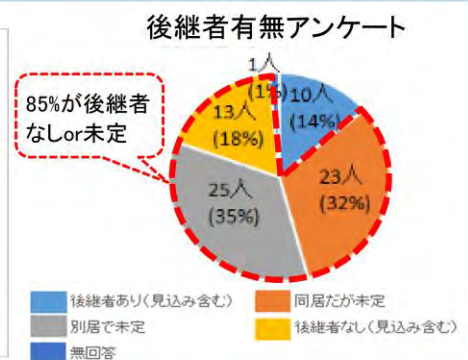
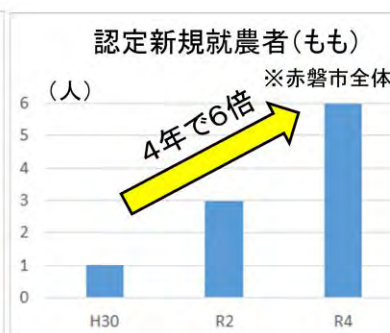
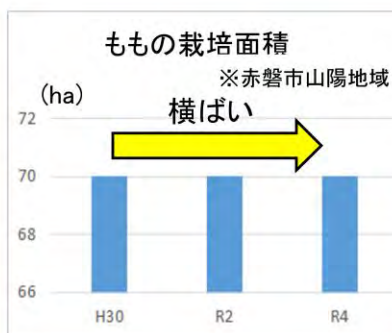


農業生産基盤整備による水田の畑地化の推進

しもにほ あかいわ
下仁保地区(岡山県赤磐市)

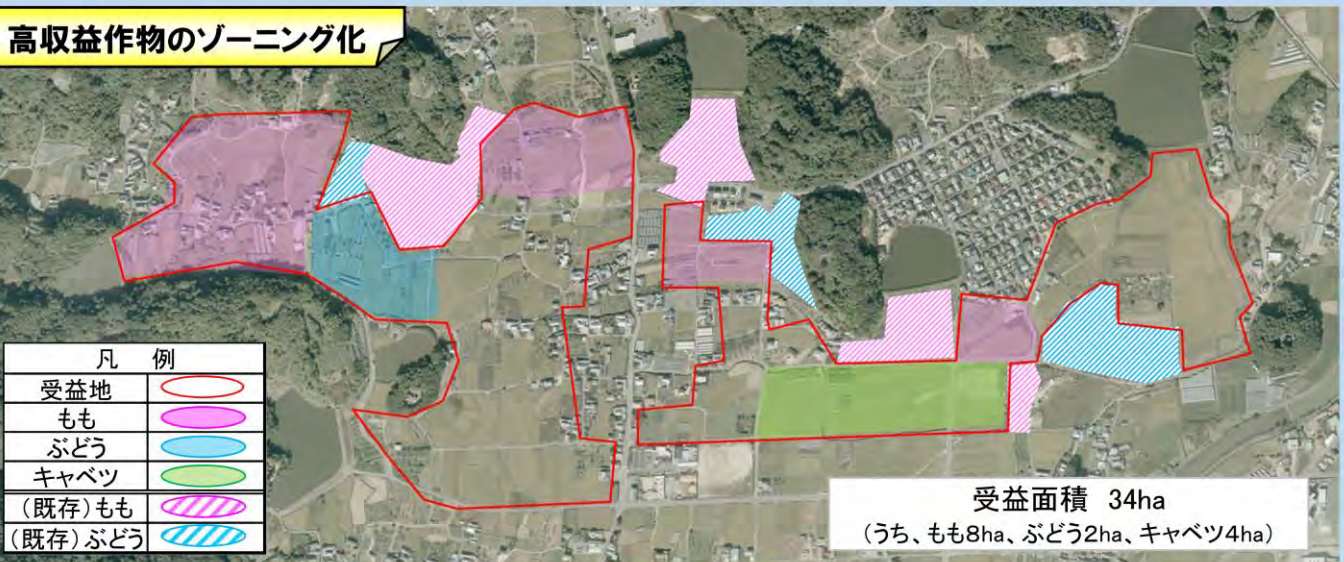
下仁保地区のもも産地の状況

- 本受益地を含む赤磐市山陽地域は、古くからもも栽培が盛んで、県下有数の産地。
- 市場からは、需要期にまとまった量を出荷してほしいとの強い要望。
- 新規就農希望者は多いが、条件の良いまとまった園地が少なく、その確保が課題。
- 地区内での後継者有無アンケート調査結果では、後継者がいない又は未定の農家が8割を超えるとともに、今後、約5割の農家が農地貸付や売却による規模縮小や離農を考えており、その対策が急務。



受益地と既存園地の集約・集団化によるもも等産地の形成

高収益作物のゾーニング化



水田の畑地化

- 後継者不足により営農が困難となる水田を、『もも園地等』に改良し、新たな園地を確保する。



今後、営農が困難となる水田



新たな園地の確保

次世代農業技術集積センター（岡山県赤磐市）



《参 考》山陽新聞（R6.10.30）

次世代農業技術集積センターの用地（点線で囲った区画）。
写真上は赤磐市環境センター、右端は同市消防本部



赤磐

市と2社 整備、運営契約

赤磐市は、野菜生産販売の青空（岡山市東区南古都）、運送業のシーアール物流（同市北区大内田）と、農業振興を図る新拠点「次世代農業技術集積センター」の整備、運営に関する契約を結んだ。赤磐市津崎の用地に育苗ハウスや大型貯蔵庫などを整え、市内の野菜生産の拡大や担い手の育成を進めてもらう。2025年11月の稼働を目指す。（近藤哲也）

野菜生産増、担い手育成

市役所で15日に締結式があり、友実武則市長が「市の農業が大きく発展すると期待している」と述べた。青空の石原大介社長は「赤磐産野菜のファンを増やしたい」、シーアール物流の大久保泰造社長は「地域の盛り上げに貢献できれば」と話した。

市は、新規就農者の育成や生産・販路の拡大など持続可能な「強い農業」の実現を狙い、センターを整備、運営する民間事業者をプロポーザル方式で公募。青空を選定し、同社がシーアール物流を協力企業に採用した。

市は、新規就農者の育成や生産・販路の拡大など持続可能な「強い農業」の実現を狙い、センターを整備、運営する民間事業者をプロポーザル方式で公募。青空を選定し、同社がシーアール物流を協力企業に採用した。

計画では、青空がレタスやキャベツをはじめとする葉物野菜やサツマイモを育苗し、市内で栽培したり、地元農家に販売したりする。新品種開発に向けた試験栽培、就農希望者の技術指導、小型無人機ドローンの教習所や生産計画が学べる経営塾の運営も手がける。

用地は市消防本部に隣接する2万2761平方メートルの市有地。市が20年貸し出し、2社が施設を建てる。投資額は非公表。

農業振興拠点
来年11月稼働へ